

留学報告書

2015年度 Funai Overseas Scholarship 奨学生
田口 厚志

先月のトランプ大統領誕生はアメリカの科学界にとっても大きな衝撃をもたらしました。今後のアメリカの科学政策の見通しが不透明なものとなる中、将来への不安を抱えつつも日々研究に励んでいます。今回の報告書では2年秋学期の体験をまとめてみました。

1. 授業選択～2年秋学期編～

卒業に必要な8単位のうち、6単位を昨年修得したので今学期は残りの2単位を履修しました。

(1) BBS 330 (Critical Thinking and Research Proposal Writing) (必修)

研究計画書の書き方を学ぶディスカッション形式の少人数クラス（教授2人+学生5人）。研究計画書は Preliminary Qualifying Exam (PQE: 博士候補生になるための資格認定試験) でも必要となるので PQE の準備にとっても役立つクラスでもあります。研究計画書を書くほかにも、研究内容のプレゼンテーション方法や研究計画書の評価の仕方を学びました。

(2) Genetics 201 (Principles of Genetics) TA

昨年は学生として履修した遺伝学の授業ですが、今年はティーチングアシスタント (TA) として学生を指導する立場で授業に参加しました（単位も修得できます）。TA の役割としては

- ・ 授業への出席、ノート取り
- ・ 宿題作り
- ・ 宿題と試験の採点
- ・ 少人数のグループを教える（セクションリーダー）

といったものがありました。特にセクションは80分間院生を教える立場にあるので準備にとっても時間がかかりました。TA をするのは初めてでしたが、教える苦勞を知ったという意味ではとてもいい経験になりました。

(3) Med-Sci 300 (Conduct of Science) (必修)

単位としてカウントはされませんが研究者としての心構えを学ぶ必修の授業です。盗作や実験データの捏造といった問題から、マイノリティ差別やラボ内での人間関係など科学界に存在する問題について議論しました。

2. 研究室（ラボ）選択

前の報告書でも書いた通り、BBS プログラムは1年目に複数の研究室で研究体験をすることを課しています。所属する研究室は1年目の終わりに研究体験を行った研究室の中から選びます。BBS プログラムは所属する研究室を途中で変えることに対してとても寛容ですが、できることなら同じ研究室で研究を続けることが理想的なので研究室選びも慎重に行います。

僕が選んだ Suzanne Walker 教授の研究室は黄色ブドウ球菌の細胞壁の構造や合成に関わる研究を中心におこなっています。研究室を選ぶにあたって考慮した点は

- ・ 研究内容
- ・ 研究室の雰囲気（社交性、学生・ポスドクの割合、協調性）
- ・ 指導教官との相性
- ・ 研究室のリソース（金銭面、研究機器）

などでした。学生の中には研究内容だけで研究室を決めてしまう人もいますが、同じ研究室で最低4年を過ごすことを考えると研究内容以外の要素も重要になってきます。ただ、こうした要素は時間の経過とともに変化するので100%自信を持った研究室選びを行うことは難しいです。

3. その他

先月ハーバードの大学院生が全米自動車労組（UAW: United Auto Workers）の組合員になるかどうかの投票が行われました。「大学院生は労働者（worker）なのか」「UAWの組合員となるメリット、デメリットは何か」「UAWに納められる労働組合費は何に用いられるか」といった様々な疑問が結局解決されないまま投票が行われた印象があります。もし賛成票が過半数を占めた場合、ハーバードのティーチング&リサーチアシスタント（大多数の大学院生）はこの労働組合に必ず加入することになります。投票結果は年明けに判明するらしいのですがどうなるのでしょうか・・・（ちなみにコロンビア大学で行われた同様の投票では賛成票が約70%でした）。



BBS プログラム2年生はBBS リトリートでの寸劇担当。今年はポケモンGOにちなんでポケモンと科学を融合させたミュージカルを企画しました。



Walker 研究室クリスマスプレゼント交換会